

第21回 山梨県介護老人保健施設大会抄録用紙

演 題	回想法は終わらない
副 題	回想法開始から約3年、 より良い運営方法を模索して

フリガナ	キョウホク シルバーケアホーム
施 設 名	峡北シルバーケアホーム
フリガナ	サギョウリョウホウシ ヨコモリケンジ
発表者(職名・氏名)	作業療法士 横森謙治
フリガナ	ショクインイチドウ
共同研究者	職員一同

【はじめに】

当施設でグループ回想法（以下、回想法）の効果について発表してから早2年が経過した。回想法がもたらす多くの効果と可能性を確認し、前回の発表を機に『入所者へ楽しみや生き甲斐を今後も提供することが私たち職員の責務である』と使命感を抱くようになった。各職種の日々の業務は多忙であっても、その責務を全うしたいため、今日まで毎週回想法を継続している。約3年に渡る実施歴のなかで、回想法実施時にみられた充実感や達成感に対し、終了後に喪失感を持つ入所者も存在した。また、グループ内での様子が介護現場に十分に浸透していない等の問題点や課題も抽出された。今回はこれらの問題点や課題に焦点を当てて活動を実施したことにより、変化があらわれたのでここに報告する。

【方法・対策】

1. 多職種(特にフロア職員)の回想法への継続的参加
2. 回想法グループ報告シート(以下、報告シート)をスタイル変更(参加者の発言内容や様子等を記入、併せて参加職員の感想や気付きも記入)
3. コリダー(進行役のリーダーを補佐し、会場の雰囲気づくりを担う等の役割)のための簡単マニュアル『回想法のすすめかた～コリダーの役割～』を作成し、担当の職員が読む
4. 回想法の説明パネルを作成・掲示
5. 壁新聞の作成・掲示
6. 施設広報誌への継続した掲載

【結果】

- ① コリダーの役割が徐々に浸透した為、回想法の進行がスムーズになり、会の成熟度が増した。

- ② 職員間で、回想法参加者の様子が話題に挙がる機会が増えた。
- ③ 回想法参加者の発言や内容が、職員と入所者の会話に多く用いられるようになった。
- ④ 回想法に参加していない現場の職員が、回想法での本人の様子を家族に伝えられるようになった。
- ⑤ 施設でのイベントの際に、回想法的要素が盛り込まれたレク等を実施するようになった。

【考察】多職種の継続的な参加や、改訂した報告シートと壁新聞等を用いたことで、現場に情報が浸透し、普段の生活の中でも職員が声かけや話題提供を行うようになり、グループ実施時と終了後の温度差は以前より解消された。終了後も自分の事を知っている人がそばにいて、自分が生き活きる話がまたできる。この安心感や心地よさが終了後の喪失感を軽減させたのではないかと。フロア職員が家族へ回想法の様子を伝えた際には「私が話しても全然話さないのに、そんなに話をしてくれるんですか」と、驚きと喜びの声も聞かれ、家族の安心感に繋がった。入所者の歴史や特技、大事にしてきた過去を知り、「もっと理解したい」、という気持ちが会話の成熟に繋がったのではないかと。

その他、コリダーのための簡単マニュアルや回想法の説明パネル、広報誌が、職員や家族に回想法を理解してもらおうと大きな役割を果たしている。またイベント等でも回想できる場を催す機会が増え、回想法は身近なものになりつつある。

【終わりに】

その人の今では想像できない苦労や喜びや悲しみ、その人のこれまでの生き方を回想法を通じて知ることが出来た。今後も継続していきたい。